

大鹿村文化交流施設整備事業（案）に寄せられたご意見と村の考え方

募集期間 令和3年2月22日（月）から3月22日（月）

提出件数 8件

番号	寄せられたご意見等（原文のまま）	村の考え方
1	<p>・ろくべん館の位置づけ</p> <p>民俗資料館としての役割と南アルプスに懐かれた山奥の豊かな生活を知り、今日に続く先人達の知恵を体験する場所です。昔の古い物ではなく現代に使われ続ける道具として見るとその知恵と生活の一部を想像し実感できる場所になります。</p> <p>その中でも織機は実体験するのに適した道具です。かつて多くの農家で営まれた養蚕にも繋がる大事な仕事であった機織りは子供から大人まで楽しんで体験できると考えます。</p> <p>これまで保育園、小学校と要望がある時に「織り姫」のメンバーから対応できる者がろくべん館での体験学習、出張学習を行ってきました。織りだけではなく村に自生する植物を利用した染め体験も行ってきました。他の民俗資料館には無い大鹿村だけの特徴になります。今後もこのような活用が続けられるような改修を望みます。</p> <p>今回のろくべん館、中央構造線博物館改修に当たっては是非とも現在のような機織りスペースと染織場所（軒下屋外でも）の設置をお願いします。小学生の総合学習や、「カスガイ」同様に村民が気軽に誰でも利用体験できる場所としても生かせると考えます。</p> <p>「織り姫」（公民館クラブに登録）は1999年に活動を始め村内外の機道具を収集活用してきました。メンバーの高齢化という問題はありますが大鹿村の文化活動に参加していきたいと考えます。</p> <p>・大鹿村中央構造線博物館</p> <p>日本で唯一の中央構造線に特化した博物館です。大鹿の暮らしを作り出して来た自然博物館と捉えると地質、鉱物だけでなく南アルプス特有の動植物にも広げて欲しいと思います。山奥での素朴で堅実で豊かな大鹿の民俗文化を知ることになります。そ</p>	<p>・今回の事業のコンセプトは施設の段差解消と、前回の文化施設検討委員会の答申にあった「既存の施設の改修・活用」という声に則り、今ある施設や展示品・収蔵品を最大限に活用することにあります。</p> <p>道具等を陳列するだけにとどまらず収蔵の道具を活かしたワークショップや県立歴史館との共催による学芸員の出張講座、道具を使った技術伝承教室など、特に実際にろくべん館を活用されている織り姫工房の皆さんの声を最大限に反映した取り組みにしていきたいと思います。</p> <p>ご意見にありますように小中学生の総合学習や、村民が誰でも気軽に利用体験でき交流できる場所になるよう整備を検討していきます。</p> <p>・大鹿村中央構造線博物館（以下博物館）では、地質の観察会以外にも2019年から「エコパークスキルアップ講座」と題して樹木を中心とした植物観察会を行っています。野山の樹木の名称や特徴などの見分け方を講師に学ぶ野外観察会です。樹木判別のスキルを磨いた受講者の方にはやがてガイドになっていただくことも期待しています。また、博物館発足当初には冬の渡り鳥の観察会も行っています。</p> <p>このように当博物館は「エコミュージアム」の理念（自然環境にあるものが展示物・博物館はそれを説明する拠点・学芸員は地域住民）をベースに活動してまいりました。ユネスコエコパークである大</p>

	<p>れを利用し大鹿の良さを外部に発信できるかもしれません。総合文化施設として可能性が広がると思います。</p>	<p>鹿村の自然環境・人の営みである文化など村の魅力を多く発信していきたいと思っています。</p>
<p>2</p>	<p>第2回推進協議会でも上がっているように主体となるべき人が具体的に決まってきていない事にこのプロジェクトの先行きに不安を感じます。また、この2施設の改修後の現状と比べての流動人口の予測数を説明頂きたいとも思います。そして、大鹿村民のどのくらいの人に利用される可能性があるのかも説明頂きたいと思います。</p> <p>観光客以外に、実際に住んでいる住民へのメリット、また移住定住につながる要素が含まれているのか。その辺りも実際に運営する方の手腕に掛かってきていると思っています。</p> <p>施設の改修の前にあの場所でこの莫大な予算を投じてでもやりたい事、できると確信している事、多くの村民が活用できる事、それぞれご説明を執行部と議員お一人お一人からお聞きしたいと思います。</p> <p>年は住民懇談会も開かれる事なくこの件が進められてきています。</p> <p>今一度、何故にこの改修へこれだけの予算をかけ、期待される村おこしの要素を熱意を持って説明してもらい機会を作ってから計画を考えてみてください。村おこしは重要です。観光客にも村民にも選択肢が増えることはとても良いことだと思います。行ってみたい場所、使ってみてみたい場所が増えることは大切です。が、大鹿村は人口を増やす事、子供の数を増やす事、この点を一番に考えて取り組まなければいけないと感じています。その観点からお金を使う内容を考えて頂きたいと思います。</p>	<p>・令和3年度は夏頃から年度末にかけて改修工事でろくべん館は閉館の予定となるため、役場職員を配置して建物改修と展示制作の事務を行います。その職員を含めて展示内容や利用体験などを、村民の方の幅広くご意見をいただきながら検討してまいります。</p> <p>・昨年度のろくべん館の来館者数は博物館の6割にあたる3044人です。これを改修後5年間で9割の4500人にするKPIを設定しています。村民の方は、公民館の各種講座の年間参加者数が約200人になりますのでこの数値を目指す計画です。</p> <p>・住民へのメリットですが、No.1の方が述べているように山村の豊かな生活を知り今日に続く先人たちの知恵を体験する場所として、ろくべん館で小学生の体験学習や村民が気軽にだれでも利用体験できることがメリットに繋がるのではないのでしょうか。2018年に大鹿村で開かれた知事とのランチミーティングの際に「大鹿村には他の観光地のような大量輸送・大量消費はそぐわない。他の地域にはない文化性の高い大鹿に何度も何度も足を運ぶ、よりディープな大鹿ファンを育てるべきだ」との提言をいただきました。単なる通過型観光ではなく、来村者が大鹿村の多様な魅力を体感できるプログラムをろくべん館から企画・発信することがきっかけとなって大鹿村を知り、定住につながることを期待しています。</p>

文化交流事業を進めていくのは文化交流推進部会で別途検討。と記載があるが、それであれば施設の改修に村民が文化交流の場として利用できる施設の検討と記載がある点はどういうことか。文化交流推進部会ではもう何をやるなど具体的に決まっていて、そのためにどういった施設が必要という所まで意見がまとまっているのでしょうか？

また、2億近くかけるなら、もっとちゃんとしたモノを作ってほしい。もし2億が安いと考えているなら考え方を改めた方が良いと思う。2億でこの程度の改修であれば、10億かけて大鹿村に誇れるものを村民と一緒に考えて作ってほしい。実際に村民向けには紙やデータでしかこの概要を観ることはなく、行政側の思いが全く伝わってこないが、村民が関わっていない施設が村民の交流の場になると思いますか？せめてもう一度村民と一緒に考えさせてください。お願いします。

正直私なら、あの場所は周囲の住宅街から少し離れているので、ワーケーションやテレワーク、博物館と連動した地質に特化した研究施設などに改修した方が良いと思います。あの場所は大西の崩壊面も見え、大鹿にしかないロケーションです。ただ今挙げたように、住宅街から離れているため、住民の交流拠点に使うにはあまりにも不便だと感じています。住民が交流する場所なら、鹿塩なら塩の里周辺であったり、大河原なら国道沿いなど近くのお年寄りなら歩いて通えるような場所。そして近くに昔からの商店が存在するところ。そういった場所に作ってほしい。作る時は村民も何かしら手伝いたい。そこに思い入れができるから。そうしたきっかけから、子供のころにあった今は閉店しているお店がいつか誰かの手で再生していくことが理想です。これが昔から大鹿村に住んでいるものの声です。

・何をやるかは大変に重要です。文化交流推進部会でも検討をしていますが、やはり実際にろくべん館を活用している織り姫工房さんの声を大切にして設計等に反映していきたいと思います。

・この事業のコンセプトは前回の文化施設検討委員会の答申の「新たな文化施設の建設にはよらず、既存の施設の改修・活用にとどめる」（2015年答申抜粋）という意見に則り今ある施設や展示品・収蔵品を最大限に活用することにあります。

・貴重な税金が財源です。大変に高額となるため国の地方創生拠点整備交付金（5割補助）や過疎債の活用を予定しています。

工事費(税込)の内訳は次のとおりです。

ろくべん館改修	75,350,000円
渡り廊下建設	2,970,000円
玄関棟建設	66,550,000円
博物館改修	9,130,000円
外構整備駐車場等	10,010,000円
受電設備改修等	7,700,000円
合併浄化槽改修	19,800,000円
計	191,510,000円

まずこの時期に新たなプロジェクトを立ち上げることに疑問を抱きます。今、わたしたちは先の読めない世界にいるからです。元の状態に戻るかもしれないし戻らないかもしれないという、先のことは分からない状態にあります。そういうなかで、村外からの訪問者を対象にした文化交流事業を立ち上げるのは時期尚早ではないでしょうか。

館の展示は郷土史家であった中村寿人先生や中川豊さんが考案され展示されたものを受け継いできました。館に展示してある品々は、決して魅力のないものだと私は考えていません。村の人が、代々どんなふうに暮らしてきたかを語ってくれる、貴重な証拠の品々だと思っています。

殊に 10 年前の東日本大震災以降、若い人たちはこれからの生き方を模索するとき、昔から人はどんなふうに暮らしてきたのかを参考にするようになったと思います。館に展示してある物は、人が長い時間をかけて工夫を凝らし知恵を絞って創り出してきた道具類です。そして動力を化石燃料や電気に頼らないものがほとんどです。また、必要がなくなった時に自然に還るものばかりで、有害物質を発することもなく環境を汚染することはありませんでした。

またこのコロナ禍を経験し、社会が不安定になるなか、私たちの住む村には自然と人間の確かな関係が昔から存在し、村人同士の強い結びつきがありました。それを大切に守ることが、村の未来につながるのではないかと考えます。日本中が感染症に右往左往するなかで、山村の暮らし方にこそ未来への足がかりが残されているのではないのでしょうか。

村に伝えられてきた暮らしや文化を外から

・確かに現時点ではコロナの終息はなかなか見えてきませんが、アフターコロナを見込んで前向きな施策を講じていくことは大切ではないでしょうか。コロナ禍の影響により昨年は大鹿歌舞伎の定期公演が春秋とも中止となりましたが、やはり伝承を第一として、今年の春は初の試みですが無観客で映像配信のみの公演となりました。ウイズコロナとアフターコロナを俯瞰しつつできることはやらないと伝承は途絶えてしまいます。

今回の事業は、既存の施設・既存の資料を活用することが大前提です。実際に織り姫工房さんがやられている、ろくべん館の道具を使って糸を紡ぐ工程から布地を制作することを小学生の体験学習へと広げた活動をモデルケースとして他の道具や、他のグループにも展開していくことも検討してまいります。

ろくべん館収蔵資料の道具の使い方の伝承教室や講座の機会を設けるなど、No. 1の方が述べられているように山村の豊かな生活を知り今日に続く先人たちの知恵を体験する場所として、ろくべん館を活用していくことが大切だと考えます。

以前、中峰の片桐登さんが会長をされていた伊那谷民俗芸能団体連絡協議会の総会の折に民俗芸能研究者の三隅治雄氏の講演を聞く機会があり、「伊那谷は民俗芸能の宝庫だけれども、伝承がなければ単なる倉庫になってしまう」と警鐘を鳴らされていたことが強く印象に残っています。

ろくべん館も織り姫工房の活動やワラ細工講座、そば打ち講座などの伝承活動を行ってきましたが、こうした活動による交流がなくなってしまうと三隅氏が言われるような単なる倉庫になってしまい

	<p>訪れる人たちに商品として売りものにするのではなく、村の中で受け継ぎ守っていくことが大切ではないかと思えます。そのために、ろくべん館はやはり民俗資料を展示する施設として存続してほしいし、更に村の人が利用しやすい施設としての改善をしてほしいところです。</p>	<p>ます。村の先人たちが使い残した道具類を実際に使った経験のある方がいるうちに どの様にして傳承していくのか、今回の改修を機にいただいたご意見を活かして今後の事業を展開してまいります。 これからも様々なご意見をご教示いただければ幸いです。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで出させていただいた意見がある程度反映されているとは思っていますが、ろくべん館の段差解消のために、このような規模の玄関棟が必要なのかという点にはやはり疑問が残ります。ろくべん館と玄関棟を渡り廊下でつなぐ構造ですが、トイレの横から入っていく構造はいかがなものか。屋外にはなりますが、渡り廊下の北側がデッドスペースになるように思います。 ・全館土足となるようですが、博物館の展示室や学習室の床がカーペットとなっており、そのままでは掃除が大変なのではないかと思えます。カーペット部分は掃除がしやすい床に改修した方がよいのでは？ ・観光客目線で考えられているように思いますが、まずは村民が集い伝統文化などを先達に学ぶことのできる場になってほしいと願います。ろくべん館を一番利用している機織りの人たちの声を聞いてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ろくべん館中央の展示スペースと玄関ホールとの段差（+1.1m）解消のためのスロープを設けるとどうしても現在の事務室とトイレスペースはつぶれてしまいます。さらに玄関ホールから玄関地面の段差（+55 cm）を解消するためには渡り廊下の長さが必要となります。 玄関棟のスペースは、交流センターの大広間の広さを想定しています。ここでは事務室・受付・トイレ来館者がくつろげる休憩スペース、染め物等のできる作業体験スペースを計画していますが、休憩スペースを体験スペースで併用するなど、最小限の規模となるよう検討します。 ・デッドスペースは要検討です。設計の変更を検討します。 ・足ふきマットで対応をしますが使用の状況を見て床材については今後検討します。 ・実際に活動をされている織り姫工房の皆さんの声を反映した設備を検討し、村民の皆さんが誰でも気軽に利用できる施設にしてまいります。
6	<p>建物の改修については、段差解消や利用者に利用しやすくする目的での改善については理解できる。しかし、新たに新設する玄関棟、体験交流ス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関棟については必要最小限なものを検討してまいります。基本的には既存の収蔵資料の活用を目指し、具体的には実

	<p>ペース、歌舞伎舞台等については、この計画では検討が不十分である。</p> <p>資料にある「交流拠点としてより一層利用していくため」という目的を達成するには、別途検討するとされている文化交流推進部会で、ろくべん館と博物館をどのように活用していくかを検討した上で、総合的に改装をする方が合理的である。工事費は1億9千万円かかるとのことだが、この金額で改修するならば、もっと慎重に検討を重ねるべきである。</p> <p>以前から、文化交流施設案については何度も計画案が出てきている。何度も同じような案が出てくるのは、住民の意見が蔑ろにされているような気がする。</p>	<p>際にろくべん館で活動している織り姫工房の活動、子どもたちの体験学習や伝承教室等の活動を想定して改修を検討します。</p> <p>工事費(税込)の内訳はNo.3でお示ししたとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の文化施設検討委員会でいただいた答申の「新たな文化施設の建設にはよらず、既存の施設の改修・活用にとどめる」(2015年答申抜粋)という意見を活かす形で事業化をしてまいります。
7	<p>ろくべん館は段差がありすぎるため、スロープを長くするようだが、そのために、受付やトイレの大がかりな改修をするより、逆にホール部分を一旦壊して、低くしては？そのうえで体験学習などの内容を決めてから、体験施設を作ってはどうでしょうか。</p> <p>体験学習の内容を検討してから、施設の改修を。先に施設を建設してしまつては、染物体験など水や火を使うような体験をする場合、使い勝手を優先した設備にする必要があると考えます。</p> <p>交流センター大広間くらいの広さであれば、交流センターで体験交流をしてはどうか。博物館の改修は賛成です。また、建設会社は一社にせず、必ず入札してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のような工法も検討しましたが、専門家に問い合わせたところ土台の構造体自体に段を付けて施工しているため低くできないと判明しました。 ・体験学習の内容は基本的には既存の収蔵資料の活用を目指し、具体的には実際にろくべん館で活動している織り姫工房の活動、子どもたちの体験学習や伝承教室等の活動を想定して改修を検討してまいります。 ・体験交流プログラムのフィールドはろくべん館に限らず村内の各所に展開されることが想定されます。その中で、ろくべん館でなければできない体験交流を検討してまいります。 ・建設会社は入札により選定します。
8	<p>2億円という莫大な金額をかけてまで行う改修が本当にいま必要であろうか。改修計画案を拝見した限りでは「喫緊の必要性や重要性を感じない」と意見申し上げます。過去、反対意見により</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の文化施設検討委員会の答申にあった「既存の施設の改修・活用にとどめるべき」とのご意見に沿って既存の施設の見直しを行い、施設の改修に合わせて既存の収蔵品の技術の伝承と活用に取り

<p>実現に至らなかった事案を無理やり理由づけしバリアフリーという名目で実行しようという思惑が透けて見えてくるようだ。</p> <p>階段が多く利用しづらいという理由づけが為されていますが、ここまで莫大な改修費用をかけずに簡易的にスロープだけを追加することで十分賄えるのではないのでしょうか。</p> <p>利用者が少ない、企画展を開催したいという思惑も、これほどお金をかけなければ実現できないことだろうかと非常に疑問を抱く。既存の展示物を削減し、新たな展示を企画し周知するだけで実現可能ではないのでしょうか。建てたい改修したいという思惑が先行し、純然たる解決策を導き出すことを放棄しているように見受けられます。</p> <p>村外等に向け魅力ある村づくりや発信を怠ってきた代償が、2億円という金額を徒らに使っただけで解決するとは思えません。根本的な姿勢から考え直した方が税金の無駄遣いをせずに済みます。村の中だけで考えているから同じことを繰り返しているようにも見える。都会で実績ある一流コンサルタントのような人材と年間契約を結ぶなどして長期的に体質改善していくなどした方が余程意義のあるお金の使い方になるのではないのでしょうか。</p> <p>このような事態になっていることを親切な人から教えてもらっていないかと思ったら意見も述べることができず知らぬまま着工されていたかと思うと恐ろしい。</p> <p>村政に関わる役場職員の皆様、村議会の皆様方に、税金の有効な使い方について、改めて再考して頂けるようお願い申し上げます。</p>	<p>組むものです。この改修を機に、村の先人たちが残した道具類を伝承していく必要があります。そのモデルケースが織姫工房の活動になります。織り姫工房の方からはカラムシなどから糸を紡ぐ作業等のしやすいレイアウトの改修を希望される声もいただいています。このような利用される方の声を最大限に反映し、他の民俗資料館には無い大鹿村だけの特徴をいかした施設にしていきたいと思います。</p> <p>そして村民の方が気軽に誰でも利用体験でき交流する場所として活かしていきます。</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年発足した大鹿村文化交流推進協議会のアドバイザーとして南信州観光公社にご協力いただくこととなっています。なお、取締役の藤澤安良氏（株式会社体験教育企画代表）を一昨年招聘し講演会を開き、豊富な実績から示唆に富むアドバイスをいただいています。藤澤氏は総務省の地域人材ネットに登録されており、全国各地でコーディネーターとして地域再生を手掛けています。・昨年はコロナ禍の影響で住民懇談会を開催することができず十分な説明をする機会を失ってしまいましたが、新村長のもと対話重視の事業を行ってまいります。
--	---